厚生労働科学研究費補助金（地球規模保健課題推進研究事業）
「各国の国際保健政策の分析を踏まえた、日本の国際保健分野への戦略的・
効果的な介入の開発研究」（H30-地球規模-一般-001）
平成 31 年度分担研究報告書

G20 主要課題における最近の議論の整理

研究分担者　坂元晴香　東京大学大学院医学系研究科 国際保健政策学教室 特任研究員

研究協力者　渋谷健司　東京大学大学院医学系研究科 国際保健政策学教室 教授

研究要旨

近年、G20 保健大臣会合では、主に health security 関連を題材としたシミュレーションエクササイズを実施している。令和元年に開催された G20 岡山保健大臣会合のパンデミックシミュレーションエクササイズは、課題設定を含め資料開発を当教室が担当した（テーマはマスギャザリングにおけるパンデミック）。エクササイズでは、マスギャザリングを控えている国で未知の感染症が発生するシナリオに基づき、感染症及び発生状況に関する誤った情報が拡散している場合どの様に対応するか、またどの様にマルチセクターでイベントの開催の是非を検討するのが適切であるか、G20 諸国の参加者を交えて議論を計 5 セッション（2 時間）に渡って行った。参加国の間では、マスギャザリングを控えている場合、適切な感染対策を取りながらイベント計画を継続する重要性への共通認識が生まれた。そのためにも、市民や国際社会の不安を仰ぐために感染状況と対策についてタイムリーに情報発信をする必要性に関しても共通認識が生まれた。また、保健省だけではマスギャザリングの健康危機対策を行うことができないため、マルチセクターの連携の重要性と保健省の役割（助言等）も共通認識が生まれた。当日使用した資料は当教室のホームページにて公表している。

また、平成 30 年から令和元年にコンゴ民主主義共和国で流行したエボラを事例とし、関係諸機関へのインタビューを実施した。その結果を論文にまとめ、年度内に公表予定である。

.

A．研究目的

21 世期は情報及び人の移動が活発な時代であり、新興及び再興感染症は直ちに感染を拡大し国境を越えて流行しやすい。過去には、重症急性呼吸器症候群（SARS）、中等呼吸器症候群（MERS）、新型インフルエンザ、エボラウイルス出血熱病が地域的に流行して、人類に猛威を奮った。これら感染症への早期及び適切な対策の必要性は各国にて認識されており、Health security(健康危機)として保健分野の重大課題に位置付けられている。
その共通の認識に伴い、近年の G20 保健大臣会合では、Health security を題材としたシミュレーション・エクササイズを実施している。エクササイズは、参加国間で健康危機への万全な準備の重要性を確認し合い、各国の経験から学び合う場となっている。2019 年に日本が主催した G20 岡山保健大臣会合では、以下の内容を参加国間で確認し合うことを目的に、パンデミック・シミュレーション・エクササイズの課題設定及び資料開発を当教室が担当した（テーマはマスギャザリング（大規模イベント）におけるパンデミックへの政治的対応）。

- 国際的なマスギャザリングに関連した感染症のアウトブレイク対応について、各国の知見（特に、マルチセクター連携の重要性や、市民への適切な情報開示のありかたについて）を参加国間で共有する。

- International Health Regulation (IHR)に示されているとおり、各国が協調してHealth security 対策を推進する重要性を参加国間で確認する。

なお、マスギャザリングにおけるパンデミックへの対応をテーマとした理由は、ワールドカップ、オリンピック・パラリンピック、メッカ巡礼などをはじめとして世界的に注目を浴びるマスギャザリングの多くが G20 諸国で開催されているためである。我が国でも、2019 年にラグビー・ワールドカップを初めて主催し、2020 オリンピック・パラリンピックや 2025 年大阪万博を控えている立場にある。これら大規模国際イベント（マスギャザリングイベント）開催時には、感染症をはじめ様々な健康危機の発生リスクに備える必要があることは世界的に認識されているが、その対策は必ずしも十分ではない。多くのマスギャザリングイベントのホスト国を担う G20 諸国にとって、その対策への重要性を改めて確認するともに、互いの経験から学び合う機会とすることを本シミュレーション・エクササイズの目的とした。

また、Health security(健康危機)と関連して、平成 30 年から令和元年にコンゴ民主主義共和国で流行したエボラを事例とし、関係諸機関へのインタビューを実施した。その結果は厚生労働省の勉強会にて発表し、同内容を論文として来年度内に公表予定である。

B．研究方法

マスギャザリングを控えている国で未知の感染症が発生するシナリオに基づき、その感染症及び発生状況に関する誤った情報が拡

散している場合どの様に対応するか、またどの様にマルチセクターでイベントの開催の是非を検討するのが適切であるか、G20 諸国参加者を交えて議論を計 5 セッション（2 時間）に渡って行った。参加者には事前にシミュレーション用に仮想のパンデミック、仮想のマスギャザリングイベント及びホスト国の情報を提供したが、各セッション冒頭で、それらの概要をまとめた 1-2 分程度のビデオ上映を行い、必要に応じてファシリテーターが概況を追加説明した。

仮想イベントとホスト国：

- イベント概要（名称：International Wellness and Arts Week, 以下イベント）
- 5 年毎に健康増進啓発を目的に開催される音楽と踊りの祭典である（開催期間は 12 日間）。イベント開催に合わせて、主催国の総理・大統領を委員長とする大会組織委員会が設立される。毎回国王を含めた各国の国家元首・首脳級が参加する大規模イベントとして、国際的に非常に知名度の高いイベントである。国家元首・首脳級に加えイベントには、各国の著名なアーティストやダンサーがボランティア（無償）で一同に募る。

  イベントの参加者は世界各国から老若男女問わず毎回延べ 100 万人を超え、ライブ中継も行われる、世界中が注目するイベントであり、参加費の多くは健康増進関連の活動に寄付される。経済効果としては、直接効果が 1 兆円超え、レガシー効果が 10 兆円以上と試算される、経済的にも影響力のある国際イベントである。期間は 20XX 年 9 月 1 日～12 日（12 日間）かけて行われる。
- イベント開催地

  Anycountry 国（総人口 2000 万人）の首都（人口 350 万人）および人口 80 – 120 万人ほどの都市 3 か所の計 4 か所で各 3 日間開催され、Anycountry 国内で開催地が移動していくイベントである。
- 経済的支援

  Anycountry 国でこのイベントを開催するのは初めてであり、イベント開催に向けて国内のハードおよびソフトインフラを整備するため、国際開発銀行（Global Development Bank）からの経済的支援（融資）を受けている。ハードインフラには、会場建設、新幹線等の長距離高速交通手段の設備、ソフトインフラには保健システムの整備も期待されている。

仮想感染症（*Anycountry virus*）：

- 伝播経路やヒトからヒトへの感染性について未だ不明の部分がある。医療・介護施設などヒト–ヒトの接触が密な場合に、集団発生の可能性が高いことが確認されている。呼吸器症状が主体であることから一般的な呼吸器感染症の予防策及び接触感染予防策の実施が推奨されており、患者

の早期発見と即時隔離(isolate)、接触者の自宅隔離(quarantine)が行われている。医学的予防方法（ワクチン・予防投薬）・根治療法はまだ確立されていない。

潜伏期は 2 日程度。症状が発現する前の段階では、感染伝播力はほとんど無く、感染性を有するのは発症から最初の 1 週間とみられている。PCR 法による病原体診断系は確立されているが、発症初期には検出感度が低いことが指摘されている。

発症者の約 80%は対症療法で軽快するが、約 20%は重症化し集中治療を必要とする。

なお、World Health Organization (WHO)では、新規感染症に命名する際に、発生した場所等固有名を用いないことを推奨しているが、今回は便宜的に発生場所である Anycountry をウイルス名(*Anycountry virus*)にそのまま用いた。

適切な情報開示のありかた及びマルチセクター連携やイベント開催の是非について以下の設問を設けて、セッション 2～4 で各国参加者代表による議論・投票を行なった後に、セッション5に総括としてそれぞれのセッションから出た意見をまとめた。

設問 1（投票）：イベント開催の是非

イベントまで 1 ヶ月を切り Anycountry virus に関する情報も限られている中、もしあなたの国で Anycountry と同じようにホストシティ以外の IslandCity 市で局地的なアウトブレークが発生した場合、保健大臣として、この時点でのイベント開催の是非についてどのような立場をとるか。

A) イベントの最終責任者であるイベント運営委員本部長（＝Anycountry 国大統領・総理）に対して開催を取りやめるよう進言する
B) IslandCity 市を中心に予防策を取りつつ感染についてはコントロールできており、開催には問題ないとする

設問 2（投票）：情報開示

International Wellness and Arts Week 開催中に演者の中から患者が発生した。その演者の出身国である GuestCountry 国政府は、演者の国名の公表を頑なに拒んでいる。一方で、ThirdCountry 国の風評被害への対策が急がれる。もしあなたの国で Anycountry 国と同じような状況が発生した場合、開催国の保健大臣として GuestCountry 国及び ThirdCountry 国政府への政治的配慮を踏まえ、さらなる感染拡大防止のために、GuestCountry 国の国名公表を行うか。この場合、公衆衛生の観点から対策上必要な情報（年齢、性別、行動歴等）はすでに開示しているものとする。

C) 一般世論の情報公開への懸念や ThirdCountry 国への風評被害対策の観点から症例 Z が GuestCountry 国出身者であることを公表する
D) GuestCountry 国への政治的配慮から症例 Z が GuestCountry 国出身者であることは公表しない

設問 3（議論）：マルチセクター

これまでの経緯を踏まえ、もしあなたの国で Anycountry **と同じような状況が発生した場合、開催国としてどの関連省庁や関連団体を交えて、どのような枠組みで、今後のイベントの継続の是非を話し合うべきか。マルチセクターによる意思決定や意見調整のメカニズムは各国どのように構築しているか（最も初めに連携する二つの省庁等を述べよ）。**

C．研究結果

1) **イベント開催の是非**

全ての参加国がイベント開催 1 **ヶ月前の段階で局地的なアウトブレイクが起こっている場合は、開催への計画を継続することを選んだ。ただし、**IHR **に基づく報告の義務とその必要性についても言及があった。**

2) **情報開示**

適切な情報開示のあり方について、国内政情への配慮と公衆衛生からの観点で意見は割れた。

コミュニケーションストラテジーとして適切なスポークスパーソン主導による情報管理と発信について言及された。

3) **マルチセクター**

各国で過去に発生したアウトブレイクからの教訓を例に、保健省を超えた多省庁連携のコミュニケーションの重要性が言及された。中でも、外務省や財務省との連携だけでなく、国内交通の制限に関して運輸省や学校閉鎖の可能性を考慮して教育省との連携が挙げられた。さらには国際機関、開発パートナー、民間セクター及び NGO **と連携やコミュニケーションの経験が共有された。また、予定されているマスギャザリングにおける感染症対応のために、平常時から訓練を行うことや、危機管理委員会を事前に設立し、サーベイランス強化や多省庁連携を円滑化することも挙げられた。**

当日のために開発された資料は当教室ホームページにて公開している。

D．　結論

オリンピックやワールドカップをはじめとする各国が経済効果を見据えながら中長期に渡って多額の準備投資をするマスギャザリングについて、未知の感染症のアウトブレイクによる中止や延期の判断は安易でない。その様なマスギャザリングにおける健康危機を重要課題として再確認する上で、本エクササイズは効果的であった。参加国の間では、ホスト国として適切な感染対策を取りながらイベント計画を継続する重要性への共通認識が生まれた。そのためにも、市民や国際社会の不安を仰ぐために感染状況と対策についてタイムリーに情報発信をする必要性に関しても共通認識が生まれた。また、保健省だけではマスギャザリングの健康危機対策を行うことができないため、マスチセクターの連携の重要性と保健省の役割（助言等）も共通認識が生まれた。

本エクササイズは 2019 **年** 10 **月** 20 **日** G20 **岡山保健大臣会合にて各国代表者参加のもと実施され、参加者から高い評価を得た。**

E. 研究発表

1. 論文発表

特になし

2. 学会発表

特になし

F. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

特になし

2. 実用新案登録

特になし

3. その他

特になし